

分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：6名（正会員4名，個人会員2名）

会 員：上條 庸子（女子栄養大学） 鈴木 学（日本女子大学）
藤倉 恵一（文教大学） 吉澤 由美子（清泉女子大学）

以上正会員

小林 美佐（昭和女子大学） 田中 環（文化学園大学）

以上個人 ML 会員

年会費：なし

例会開催回数：11回（合宿1回含む）

延べ参加者数：54名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/bunrui/>

活動

1) 基本テーマ

件名，シソーラス，Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究を基本テーマとする。

今期は，前期後半の研究を継承し，現在日本図書館協会分類委員会で編纂中の「日本十進分類法（NDC）」新訂10版の試案について検証と評価，および必要な提言をすることをメインテーマとし，『使いやすい NDC』は実現可能か？とする。また，そのために必要な理論的基盤の研究についても並行して行う。

2) 活動の概要

分類研究分科会は2年間で(1)研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える，(2)主たる研究テーマの研究・検証を行う，(3)研究成果の発表および総括の3つの期間に分けて活動する。

2010年度は第1期から第2期、2011年度は第2期から第3期の活動を行う。

2. 1) 第2期 日本十進分類法試案の検証

第2期の活動として，前期からの継続課題である「日本十進分類法新訂10版試案の概要」の検討を行った。

試案については，時系列で以下のように公開されている。また試案は『図書館雑誌』のページ構成上，各4ページという制約があるが，日本図書館協会分類委員会ホームページ（<http://www.jla.or.jp/committees/bunrui/tabid/187/Default.aspx>）上では，PDF および HTML で雑誌掲載のものより詳細なものが公開されている。分科会での検討にはこの Web 版を使用した。以下「試案」とはこの Web 版のことを指す。

- ・ その5 1類「哲学」の部 図書館雑誌 104(9) p.625-628, 2010.9
- ・ その6 5類「技術」の部 図書館雑誌 105(5) p.296-299, 2011.5

また，「使いやすい NDC」の具体像をつかむためには，その利用指針となる「解説」の改善も不可避であることから，9 版本表編に掲載された「解説」について精読を行い，内容を検討することによって「解説」の問題点を抽出した。

これら検討の結果を、NDC 全体に関わる課題と各分類改訂試案、「解説」個々に対する課題とに整理し、2012 年 2 月 1 日付「日本十進分類法新訂 10 版試案に対する意見：1 類・5 類および 9 版「解説」について」として日本図書館協会分類委員会に提出した。また、分類委員会より意見書への回答として、同 2 月 28 日付「日本十進分類法新訂 10 版試案に対する意見（回答）」を受理した。

なお、この研究は試案の公開に応じて次期以降も継続する。

2. 2) 夏期研究合宿

夏期研究合宿は、第 2 期の活動に関連して NDC10 版改訂試案が既存の出版物の分類にどの程度の影響を及ぼすかを推測するために、2009 年度同様の手法を用いて『出版年鑑』をサンプルとした実証実験を行った。

2. 3) 第 3 期 今期のまとめとして

今期の活動計画のメインテーマに掲げた「使いやすい NDC」の具体像は、討議を通じて「利用者のタイプにみあった使いやすさ」「機能面からみた使いやすさ」「物理的形態としての使いやすさ」とそれぞれの視点から課題が提示された。よって、会期末の研究発表はこれを主たるテーマとして『『使いやすい NDC』は実現可能か?』と題して行った。

前期同様、会員個人およびその所属館に対しては、試案の集中的検討と批評を通じて NDC への理解が深まったことから、スキルの向上と業務への反映が一定量達成しえただろう。

さらに分類委員会に行った提言は、今後の審議や各分類の検討にある程度の反映が期待されることから、図書館界への貢献もできた研究内容であったと自負するものである。

2. 4) 会場記録

2011 年 4 月 15 日（金） 清泉女子大学
5 月 20 日（金） 女子栄養大学（坂戸）
6 月 17 日（金） 日本女子大学（西生田）
7 月 22 日（金） 清泉女子大学
9 月 7 日（水）～9 日（金） いこいの村ヘリテージ美の山（埼玉県秩父郡）
9 月 16 日（金） 女子栄養大学（坂戸）
10 月 15 日（金） 清泉女子大学
11 月 25 日（金） 文教大学（越谷）
12 月 10 日（土） 日本女子大学（目白）
2012 年 2 月 17 日（金） 女子栄養大学（駒込）
3 月 23 日（金） 文教大学（旗の台）

資料

1) 刊行物

特になし。

2) 事業

ア. TP&D フォーラム 2011（第 21 回整理技術・情報管理等研究集会）の共催

1991 年に日本図書館研究会整理技術研究グループ（現・情報組織化研究グループ）により始められた TP&D フォーラムは、第 2 回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2011 年度は熱海で開催され、分科会からは藤倉（実行委員）・上條・小林の 3 名が出席した。

フォーラムの参加者は教員、図書館員、データベース業者などさまざまであり、これに

分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握、(2) 分野を同じくする教員や研究者との交流、(3) この分野の研究基盤継承への貢献 であるといえる。

なお、2012年度は8月17・18日に京都にて開催される予定である。

イ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007年度より、分類研究分科会を代表して藤倉がNDCの編纂に携わっている。これによって、分類研究分科会での研究成果を多少なりともNDCの編纂に役立てることができ、逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

なお、2009年度以降の活動の中心となっているNDC試案に対する批評については、編纂者としての立場とは直接無関係な活動として実施・公表している。

(文責・藤倉恵一)